

# 1. 評価報告概要表

評価確定日

平成21年3月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1570104065
法人名	医療法人 愛広会
事業所名	グループホームおやま
所在地	新潟県新潟市北区木崎754番地 (電話) 025 - 388 - 2215

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 21年 2月 19日

【情報提供票より】( 20年 12月 19日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	7人	常勤 7人、非常勤 0人、常勤換算 7人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階 建ての 1階 ~ 2階 部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有( 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		760 円	

### (4) 利用者の概要 ( 20年 12月現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	4名	要介護2	2名
要介護3	3名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援	0名
年齢	平均 80.8 歳	最低 74 歳	最高 88 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	新潟リハビリテーション病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

病院や老人保健施設を運営する医療法人が母体のグループホームである。職員は、老人保健施設で認知症ケアの経験を積んだのちにホームに配属されており、専門性をもって日々のケアを行っている。また、協力病院の「もの忘れ外来」の専門医がホームの主治医であり、運営推進会議にもメンバーとして出席しており、より質の高い認知症ケアに向けた体制が整備されている。管理者・職員間のコミュニケーションが密に図られており、日頃からこまめに意見交換や話し合いを行っており、小さなことでも互いに言い合える関係ができています。これにより、職員が利用者一人ひとりの情報をよく把握し、きめ細やかな個別ケアを実践している。利用者はこのような職員に支えられ、それぞれが主体性を持って日常生活を送っている。趣味活動や楽しみごと、家事などの役割などに、利用者一人ひとりが個性と能力を発揮し、明るく生き生きと暮らしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果は職員全員で話し合い、具体的に改善に取り組んだ。「地域密着型サービスとしての理念」では、これまでの理念を見直し、職員全員で話し合い、「地域とのつながり」を大切にすることを加えた新たな理念を掲げた。「地域とのつきあい」では、積極的に地域の情報を得て、行事等に参加している。「虐待防止」や「身体拘束防止」に向けては、職員間での話し合いや勉強会を行い、理解を深め、虐待や拘束のないケアに活かしている。「外出支援」では、平成21年4月からホーム専用の車が導入される予定となり、利用者が希望したときの柔軟な支援をこれまで以上に行う意向である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員が実施し、日々のケアを振り返る機会となった。サービス評価で見出された課題については、会議で話し合い、具体的に改善に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回定期的に開催している。ホームの状況や活動報告を中心に行なっており、参加者からの意見を得て運営に反映している。認知症ケアや困難ケースなどへの理解を深めてもらえるよう、事例をもとにした話し合いも行っている。運営推進会議には地域包括支援センター職員も参加しており、日頃から情報交換や相談など協力体制ができています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>面会時や介護計画のカンファレンスの際に、意見や要望を家族から聞き取っている。口頭や手紙で利用者の日々の様子を具体的に報告することで、より具体的な意見の引き出しにつなげている。寄せられた意見や要望は職員間で検討し、速やかな対応に努めている。また、ホーム内に意見箱も設置している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>病院や老人保健施設のある敷地内の一角にあり、地域の人が日常的に行き交うという立地ではないが、ボランティアに来てくれる地域の方や地区のコミュニティセンターなどから地域行事の情報を得て積極的に参加している。近隣にある保育園や中学校の行事にも参加し、園児や生徒との交流を図っている。</p>

## 2. 評価報告書

(   部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、平成21年1月から「地域とのつながり」を大切にすることを加えた新たな理念を掲げている。理念の見直しにあたっては、ホームが大切にしたいことを職員皆で話し合った。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務室内に掲示し、職員が常に理念を確認できるようにしている。また、日々のケアが理念にそったものになっているか、職員会議やミーティング、日々の業務の中でも常に管理者が職員に問いかけ、振り返りを行っている。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	これまでも理念を玄関やパンフレットに明示し、家族や来訪者に話をしてきた。新たに見直した理念を理解してもらう働きかけは今後行っていく予定である。		地域の一員としての利用者の暮らしを支援していくためには、家族や地域の方からホームの理念や実践への理解を深めてもらい、協力を得ていくことが不可欠である。今後、少しずつ理念を理解してもらえるよう取り組みをしていく予定であるので、期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	病院や老人保健施設のある敷地内の一角にあり、地域の方が日常的に行き交うという立地ではないが、ボランティアに来てくれる地域の方や地区のコミュニティセンターなどから地域行事の情報を得て積極的に参加している。近隣にある保育園や中学校の行事にも参加し、園児や生徒との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が実施し、日々のケアを振り返る機会となった。サービス評価で見出された課題については、会議で話し合い、具体的に改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回定期的で開催している。ホームの状況や活動報告を中心に行っており、参加者からの意見を得て運営に反映している。認知症ケアや困難ケースなどへの理解を深めてもらえるよう、事例をもとにした話し合いも行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から地域包括支援センターと密に連携を図っている。地域包括支援センターを中心に開催される地区の包括ケア会議や、地域密着型サービス事業所の連絡会にも参加し、意見や情報交換の機会としている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する外部研修に管理者が参加し、その内容をもとに内部研修を実施し、具体的な虐待行為や、虐待発見時の通報体制などについて職員全員が理解を深めている。身体的なものだけでなく、心理的な虐待、言葉による抑制等についても日頃から注意し合い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりのホームでの生活の様子や受診の状況などを手紙にし、毎月個々の家族へ送付している。その際、金銭の出納状況と領収証も併せて送付している。状態変化など連絡が必要な場合は随時電話で知らせている。また、年3回ホームの広報紙を発行し、暮らしぶりや活動状況を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や介護計画のカンファレンスの際に、意見や要望を家族から聞き取っている。口頭や手紙で利用者の日々の様子を具体的に報告することで、より具体的な意見の引き出しにつなげている。寄せられた意見や要望は職員間で検討し、速やかな対応に努めている。また、ホーム内に意見箱も設置している。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議や日々のミーティングで職員の意見や要望を聞いている。また、職員が毎年法人本部に提出する「自己申告書」にも意見や要望を記入することができ、運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内に複数の事業所があり、異動は行われるが、必要最小限にとどめ一度に多くの職員が代わることがないように配慮されている。異動の際は、引き継ぎを十分に行って利用者へのケアが途切れなないようにし、また、個々の利用者に応じたタイミングで説明し、ダメージ軽減に努めている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	業務の統一化を図るための各種マニュアルが作成され、職員に周知されている。必要な場合は、職員会議等で随時話し合っ見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職員に応じた外部研修に参加できるようにしている。外部研修の内容は、復命書の回覧や職員会議での伝達を行い、全職員へ周知している。ホーム内では、職員会議に合わせて勉強会や研修を行ったり、業務の中で管理者から適宜指導や助言を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターを中心に開催される地区の包括ケア会議や、地域密着型サービス事業所の連絡会にも参加し、意見や情報交換の機会としている。これらの会議をきっかけに、近隣のグループホームと密に情報交換や相談を行えるようになった。		現在、会議等への出席や他ホームとのやりとりは管理者が中心に行なっているが、今後は、他の職員同士も交流ができるよう、さらに取り組みを進めていってほしい。
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者と職員は日頃から密に意見交換や話し合いを行っており、小さなことでも互いに言い合える関係ができています。職員同士の食事会や旅行などでもコミュニケーションを図っている。また、管理者は、職員の表情や様子などを見て声をかけて、話を聞いている。併設の老人保健施設との協力体制があることも職員の不安軽減につながっている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者のホーム見学や面談に応じている。管理者だけでなく全職員が対応できるようにし、本人や家族の不安や疑問に適切に答えられるようにしている。入居後は、他の利用者との関係づくりや馴染みの環境づくりなどに心がけ、家族の協力も得ながら徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事づくりや畑仕事など、利用者が経験や得意なことを発揮できる場面づくりをし、職員は利用者から教わることを楽しみながら関わっている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者一人ひとりの様子は家族へ具体的に報告し、情報共有に努めている。介護計画作成時のカンファレンスにも家族から参加してもらい、本人への支援を一緒に考えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室でゆっくり話をする時間を持ったり、個別に買い物に出かけた時など、1対1で本人と関わる機会をつくり、意向や希望を聞いている。表出が難しい方には、日々の会話の中からくみ取ったり、質問や声のかけ方に工夫し、引き出すよう努めている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のこれまでの暮らし方や生活歴、趣味・好みの活動などについて、本人との日々の関わりの中から引き出したり、家族から情報を得るなどして把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中からそれぞれの職員が得た情報、気づきを記録し、毎日情報交換している。計画作成時には全職員から意見を収集するとともに、カンファレンスには家族にも参加してもらい、本人の希望や意向も踏まえて検討している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月に1回見直しを行っているが、状態変化等に応じては随時見直している。見直しの際は、担当職員による評価に対して全職員から意見や気づきが提示され、本人や家族の意向とともに検討されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望に応じた買い物や外出に柔軟に対応している。併設の老人保健施設での書道や手芸の活動にも希望に応じて参加できるようにしたり、また、入居前に老人保健施設のデイケアに通っていた方には入居後も定期的に遊びに行けるようにし、馴染みの関係を維持できるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関については本人・家族に希望を確認し、多くの方が協力病院をかかりつけ医としている。協力病院への受診は職員で支援し、受診結果は家族へ報告している。他の病院への受診は基本的には家族の協力を得ているが、病状等に応じては職員も同行し、医師との適切な連携に努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで支援できること、できないことは入居時に本人・家族へ説明している。ホームは2階建てであるがエレベーターがないなど設備面から重度化や終末期への対応は難しく、身体状態や病状に応じて本人や家族、医師と随時話し合い、意向を確認しながら、併設の老人保健施設や協力病院への移行なども支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや対応は丁寧で穏やかであり、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような対応は見られなかった。個人情報は保護規程に則って管理しており、記録や管理は利用者や来訪者の目に触れないよう事務室で行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の過ごし方や生活のペースなどは、職員が一方的に決めるのではなく、利用者本人と話し合いながら支援している。好きな活動への参加、買い物など、利用者の希望にそって対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、テーブルの準備、お茶出し、後片付けなど、利用者一人ひとりが主体的に行えるよう職員が側面から支援している。利用者と職員と一緒に食卓を囲んで食事を食べており、準備から後片付けまで楽しみながら行っている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。多くの方が排泄は自立している。紙パンツやパットを使用している方には、本人の様子を見ながら、さりげなく確認したり交換を促し、気持ちよく過ごせるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯や回数は利用者一人ひとりの希望に沿うよう努めており、毎日入浴される方もおられる。入浴をあまり好まない方にも、週3回は入浴して頂き清潔を保持している。入浴剤を使用したり、時には日帰り温泉に出かけるなどして入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくりや洗濯物干しなど利用者一人ひとりが自発的に行ってくれることを大切に、役割としてもらっている。畑仕事や編み物など好きな活動も行えるよう支援している。外出機会も多く、利用者の楽しみとなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週3回は利用者と一緒に食材の買い物に出かけているほか、個々の希望に応じた買い物にも柔軟に対応している。散歩や、併設施設の活動・行事への参加、季節に応じた外出行事など出かける機会は多い。平成21年4月からはホーム専用の車が導入される予定であり、より希望に沿った外出への対応に取り組む意向である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議等の機会に学習や話し合いを行い、理解を深めている。身体拘束はあってはならないものと認識し、言葉による抑制についても日々振り返りながら、拘束のないケアを実践している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけていない。鈴やドアチャイムなどを戸につけて、人の出入りを把握している。外に出られる様子のある場合は、他の話題や活動を働きかけたり、一緒に出かけるなどし、鍵をかけないケアを実践している。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者個々の心身状況のアセスメントや、ふらつきの見られる方はチェック表を使うなど、一人ひとりのリスクを把握している。事故やヒヤリハット事例があった場合は、その日のうちに検討して対応策を取り、報告書で職員に周知している。対応策は定期的に評価している。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	緊急時の対応マニュアルを整備し、必要なものはすぐに確認できるよう掲示するとともに、職員会議等でマニュアルに沿って対応方法を確認している。救急法や応急手当についても定期的に訓練している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	2か月に1回、避難や通報、連絡、消火など、様々な場面を想定した訓練を行っている。併設の老人保健施設や病院との連携体制も確立している。運営推進会議でも災害時の協力体制について議題とし、話し合いや意見交換をしている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量、体重チェックを行い、利用者個々の状態を把握している。それに応じて、食事の量や形態を変えたり、好きな飲み物を用意するなど支援している。食事の献立は、併設の老人保健施設の栄養士から定期的に確認してもらい、アドバイスを受けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具や装飾品は家庭的であり、また、季節に応じた花や装飾を飾るなど、親しみやすくあたたかみのある共有空間づくりをしている。掃除も行き届き、清潔感がある。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッドとチェストはホームで用意しているが、利用者一人ひとりの好みに応じて、テーブルや仏壇を持ち込んだり、趣味の品や写真を飾るなどし、その人らしい居室づくりがされている。また、居室を間違わないよう、本人の状態に合わせてのれんや表示など工夫している。</p>		